

教育の充実に向けて

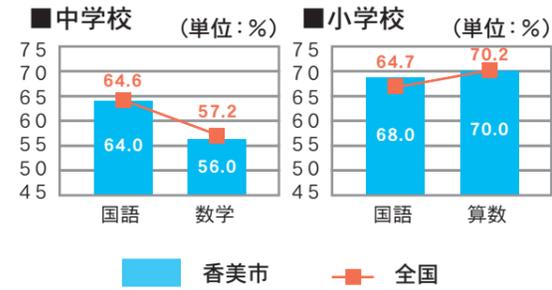
新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、中止となっていた『全国学力・学習状況調査』が2年ぶりに、全国一斉に実施されました。併せて、本市では毎年4月に実施していた『標準学力調査』を、今年度から『学力・学習状況調査』に変更し、実施しました。（埼玉県が開発した調査であることをごまめ、以後、『埼玉県学力・学習状況調査』と称します。）

どちらの調査も、子ども達の学力や学習の状況を把握し、学校での授業改善に活用したり、家庭等と協力して子ども達の生活を見直したりする目的で実施しています。香美市教育委員会では、この結果を受けて、各学校とともに学力向上に一層取り組んでいきます。香美市の子ども達の学力の現状と、取組について紹介します。

全国学力・学習状況調査

今年度は小中学校の新学期指導要領（全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定める教育課程の基準）が全面実施となつて初めての調査でした。学習のあり方そのものが大きく変わる中、調査問題も、子ども達にとってより身近な場面で、課題解決の力が問われる内容となつており、課題解決を図る思考の過程が重要視されています。

香美市の結果は全国平均正答率と同等の結果となっています。これは各学校が、学習指導要領の趣旨を踏ま



え『子ども達につけるべき力』を明確にし、P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルを回しながら、授業改善に努めてきた成果だと言えます。

	埼玉県学力・学習状況調査	全国学力・学習状況調査
対象	小学4年生～中学3年生	小学6年生、中学3年生
教科	国語、算数・数学、英語 （英語は中学2～3年生）	国語、算数・数学
質問紙	学習意欲、学習方法および生活習慣等に関する事項	学習意欲、学習方法および生活習慣等に関する事項
特徴	学力の伸びを小学4年生から中学3年生まで同一児童生徒を継続して把握できる調査	全国における学力の傾向を知ることができる調査

求められる学びのあり方

社会の急激な変化、予測困難な時代を迎え、教育も大転換期を迎えました。これからの時代に力強く対応する力を育成する要となるのが、探究的な学習です。文部科学省では、探究的な学習を『物事の本質を探つて見極めようとする一連の知的な営みのことである』と定義しています。自ら課題を発見し、情報収集・整理・分析を行い、結論のまとめ、表現を行う、そこからまた新たな課題を見つけるといった学習活動を発展的に繰り返していく、問題解決的な学習活動です。

香美市でも、『教育振興基本計画』に基づき、探究的な授業づくりを推進しています。今年度から、全ての子ども達がタブレットを使った学習ができるようになり、より探究的な学習が行える環境が整いました。

質問紙調査の項目から、探究型学習に関する具体的な質問について紹介します。

①これまでに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。

②これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうま



く伝わるよう、資料や文章の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

③これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

④授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか。

⑤学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

次の表は、各質問項目①③で児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率です。

質問事項①	平均正答率(%)			
	小学国語	小学算数	中学国語	中学数学
伝えていた	68.6	71.3	68.0	58.4
どちらかといえば、伝えていた	68.6	70.4	63.4	55.2
どちらかといえば、伝えていなかった	60.7	66.1	52.4	48.3
伝えていなかった	47.6	56.3	回答0	回答0



▶山田小2年生算数『さんかくやしかくの形をタブレットのアプリを操作して、図形を仲間分け』

質問事項③	平均正答率(%)			
	小学国語	小学算数	中学国語	中学数学
当てはまる	72.2	76.7	65.4	59.0
どちらかといえば、当てはまる	65.2	66.3	65.1	55.9
どちらかといえば、当てはまらない	64.8	66.5	50.5	39.9
当てはまらない	58.9	62.5	回答0	回答0

特に質問項目①の『伝えていた』と『伝えていなかった』では平均正答率が20%以上開いています。肯定的な回答をした子どもも、学力調査で高い正答率になっています。このことから、探究的な学習は、学力向上に関係性が高いと言えます。他の項目についても同じ傾向が見られました。

また、探究的な学習の軸となるのが『総合的な学習』

の時間』です。実生活や実社会における課題に、各教科で身に付けた力を活用・発揮しながら課題解決に向けて取り組みます。『総合的な学習の時間の学習』の学びのフィールドは地域です。では、地域に関する質問項目の一部を紹介します。

『地域や社会をよくするために何をすべきかを考える』ことがあります。（強肯定）この質問項目は、平

成27年度から令和3年度までの経年で紹介します。

調査結果からも分かるように、全国と比較すると、地域や社会のために自分たちができていることについてよく考えていることが分かります。コロナ禍で活動が制限されることもありますが、子ども達が、地域に出かけ、地域の方々に協力をいただきたながら、学習を深めている結果だと思えます。

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。（強肯定）

■小学校 (単位：％)

年度	香美市	全国
H27	22.2	14.8
H29	22.2	14.8
H30	18.2	17.3
H31	25.5	18.9
R3	23.9	17.8

■中学校 (単位：％)

年度	香美市	全国
H27	8.3	8.8
H29	8.3	9.8
H30	15.2	10.6
H31	11.4	11.5
R3	14.4	12.6

■ 香美市 ■ 全国

©やなせたかし 龍河洞リユウカン